



⑧発信する ⑨追究する ⑩粘り強く ⑪つながる ⑫思いや願いを実現しようとする ⑬課題解決する

伝える力を身につけさせるために～その2～

校長 許斐 真也

「水筒を 垂直にして 飲んだ夏」

これは夏休み前に（まだ「前」ですよ！）廊下に掲示してあった5年生の作品です。「今年の夏も暑かったね～」と直接の表現で伝えあうことは日常のあいさつでもできますが、「本当に暑い」という思いがその情景とともに伝わる、素晴らしい作品です。

今年の夏休みも、ここ数年慣れてきたとは言え、健康が心配されるほどの暑さが続きました。休み中空調が効いた室内で過ごすことが多かった子どもたちの暑さに対する慣れが心配されるところです。しっかりと食事や水分、睡眠をとったり、生活リズムを整えたりすることで乗り切ることができるよう、ご家庭でもご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今日、夏休み後最初の朝会で、私から子どもたちに課題を出しました。その一つが

「たくさんのいろいろな人たちとお話をしましょう」

というものです。友だちを始め、教師など学校で会う人たち、ご家族、毎朝見守ってくださる地域のみなさんなどと挨拶程度の簡単なことから場合によっては大切なことまで、その内容は様々であると思います。学校で過ごす間は年齢の近い友だち、または教師など、ある程度限定された相手との会話を中心ですが、いろいろな相手とコミュニケーションをとることはとても大切です。好意的に受け容れられながらの場合もありますし、臨機応変な対応が求められる場合もあるでしょう。思ったとおりに伝えられるときばかりではないと思いますが、子どもにはその体験が大切です。実体験により学ぶことは理解も深く、長く残るものです。日ごろから面と向かってコミュニケーションをとることで伝える力をつけ、伸ばすことを大切にしていきたいです。

過日見かけたコラムの中に、子どものSNS使用などに伴いコミュニケーションの力が以下の2点について退化しつつある、という意見が述べられていました。

【発言力の退化】

便利なツールができてしまったばかりにそれに頼って（大勢の前での）発言を回避できるようになった結果、ますます子どもの発言トレーニング不足が深刻化している。

【表現力の退化】

子どもたちは日常会話の中で自分の感情の表現をいわゆる「スタンプ」などにたよりつつある。（もっとすごいアプリもある）いざというときに自分の思いを的確な言葉にできなくなってきている。

もちろん、SNSを含む情報社会の進化は私たちに便利な生活を提供してくれています。しかし全てを頼り切ってしまうのではなく、自分にとって本当に必要なことであるかどうか、場合によっては自分のためになるかどうかをしっかりと判断することが求められていると思います。未熟な部分もある子どもが、この先長い人生を送るにあたって、何が大切なことなのかをよく考えていきたいと思えます。